

主 題：「救い」とは
聖書箇所：エペソ人への手紙 2章8－10節

こうして皆さんとみことばを学べることを心から感謝しています。「人は、たとえ全世界を手に入れても、まことのいのちを損じたら、何の得がありません。そのいのちを買い戻すには、人はいったい何を差し出せばよいでしょう。」、これはマタイの福音書16章26節でイエスが弟子たちに語ったことばです。私たちの人生にはたくさんの質問があります。その質問は小さな質問であったり、あるいは、深刻な問題の質問であったり、また、非常に大切な質問であるかもしれません。しかし、その中で最も大切な、最も重要な質問は「私たちの人生の目的が何なのか？」ということです。私たちはこの地上でどのように歩まなければいけないのか？これが私たち人間にとって最も大切な質問です。

1. 私たちにとって一番重大な（重要）な質問

確かに、この質問を投げかけるならいろいろな答えが返って来でしょう。それは、健康に恵まれること、お金があって安定な暮らしをすること、定まった良い仕事に恵まれること、また、平和な家庭や家族が与えられること、そして、高い社会的な地位が与えられることなど、確かに、この一つ一つは大切なことかもしれませんが、考えてみると、これらのことは一時的なことです。どれ一つを取っても、私たちに保証されたものではありません。私たちはこの最も重要な、最も重大な質問「私たちの人生の目的は何なのか？」に対して答えを見つけることができるでしょうか？それはYESです。可能です。聖書がその答えを私たちに与えてくれています。先程読んだマタイ16：26では、「まことのいのちを得ること」が「全世界を手に入れること」よりも重要であると、イエスは私たちに教えています。「まことのいのち」、それは別のことばで言うなら「永遠のいのち」のことです。

しかし、考えてみると、私たちは自分の永遠に関して余り真剣に考えようとならないのではないのでしょうか？それはきっと、今が良ければそれで良いではないか、考えても分からない永遠のことなど考えたくもないと思うからではないのでしょうか？旧約聖書ミカ書6：8には「主はあなたに告げられた。人よ。何が良いことなのか。【主】は何をあなたに求めておられるのか。それは、ただ公義を行い、誠実を愛し、へりくだってあなたの神とともに歩むことではないか。」と書かれています。

今日は、皆さんとごいっしょにもう一度私たちの人生、この地上での歩み、それを考えてみたいと思います。神と私たち一人ひとりの関係、別のことばで言うなら、私たちの永遠の考える時、「まことのいのち」を得るために、また、「神とともに歩む」ためにはどうしても解決しなければならない一つの問題があります。それは「私たち人間の罪」です。罪という問題、これを私たちは解決しなければいけません。ローマ6：23に「罪から来る報酬は死です。しかし、神の下さる賜物は、私たちの主キリスト・イエスにある永遠のいのちです。」と書かれています。神の約束は、罪を解決する、あるいは、罪から救われることによって私たちは永遠のいのちを得ることができるということです。このように確かな神の約束がみことばには記されています。

私たちはこれから簡単に「罪と救い」、そして、今日のみことばからその「罪の本質」、また、「罪の目的」を学んでいきたいと思えます。

2. 「罪」と「救い」

1) 罪とは？

- a. このことばの意味するところは「的を外す」で、それは「的外れの生き方をする」ということです。
- b. また、聖書辞典では、「罪」とは「神から離れて神に反逆することであり、神を無視して自我、自己中心に生きること」と説明されています。

ヤコブ1：14－15にはこのように書かれています。「14 人はそれぞれ自分の欲に引かれ、おびき寄せられて、誘惑されるのです。15 欲がはらむと罪を生み、罪が熟すると死を生みます。」、また、ヨハネはヨハネの手紙第一3：4で「罪を犯している者はみな、不法を行っているのです。罪とは律法に逆らうことなのです。」と記しており、「罪とは神の命令に逆らうことだ」と教えています。ローマ3：10－12にも「10 それは、次のように書いてあるとおりです。「義人はいない。ひとりもない。11 悟りのある人はいない。神を求め人はいない。12 すべての人が迷い出て、みな、ともに無益な者となった。善を行う人はいない。ひとりもない。」（参考、詩篇14：1－3、53：1－3「14:1 愚か者は心の中で、「神はいない」と言っている。彼らは腐っており、忌まわしい事を行っている。善を行う者はいない。2 【主】は天から人の子らを見おろして、神を尋ね求める、悟りのある者がいるかどうかをご覧になった。3 彼らはみな、離れて行き、だれもかれも腐り果てている。善を行う者はいない。ひとりもない。」「53:1 愚か者は心の中で「神はい

ない」と言っている。彼らは腐っており、忌まわしい不正を行っている。善を行う者はいない。：2 神は天から人の子らを見おろして、神を尋ね求める、悟りのある者がいるかどうかをご覧になった。：3 彼らはみな、そむき去り、だれもかれも腐り果てている。善を行う者はいない。ひとりもない。」とあります。

私たちは今日、エペソ 2：8-10 を学びますが、その前の 2：1-3 には「救われる前の人間の姿」が描写されています。「：1 あなたがたは自分の罪過と罪との中に死んでいた者であって、：2 そのころは、それらの罪の中であってこの世の流れに従い、空中の権威を持つ支配者として今も不従順の子らの中に働いている霊に従って、歩んでいました。」、3 節が大切です。「：3 私たちもみな、かつては不従順の子らの中であって、自分の肉の欲の中に生き、肉と心の望むままを行い、ほかの人たちと同じように、生まれながら御怒りを受けるべき子らでした。」、また、パウロはローマ 1：29-32 でこの罪の具体的な例を挙げています。「：29 彼らは、あらゆる不義と悪とむさぼりと悪意とに満ちた者、ねたみと殺意と争いと欺きと悪だくみとでいっぱいになった者、陰口を言う者、：30 そしる者、神を憎む者、人を人と思わぬ者、高ぶる者、大言壮語する者、悪事をたくらむ者、親に逆らう者、：31 わきまのない者、約束を破る者、情け知らずの者、慈愛のない者です。是非後でご覧ください。：32 彼らは、そのようなことを行えば、死罪に当たるという神の定めを知っていながら、それを行っているだけでなく、それを行う者に心から同意しているのです。」

2) 「救い」とは？

「危険と悲惨な状態から安全、安心な状態へと救い出されること」、それが「救い」だと言います。聖書辞典では「神が人間を罪がもたらす永遠の滅びから救い出し、永遠のいのちを人間に与えてくださるという神の働き、聖霊の働きであり、それは罪の奴隷から神の奴隷として生きることである」と説明されています。「罪の奴隷から神の奴隷に」、パウロはこのことをローマ 6：16-18 で私たちに明らかに示しています。「：16 あなたがたはこのことを知らないのですか。あなたがたが自分の身をささげて奴隷として服従すれば、その服従する相手の奴隷であって、あるいは罪の奴隷となって死に至り、あるいは従順の奴隷となって義に至るのです。：17 神に感謝すべきことには、あなたがたは、もとは罪の奴隷でしたが、伝えられた教えの規準に心から服従し、：18 罪から解放されて、義の奴隷となったのです。」

a. イエス・キリストの血によってのみ解決される

先程も罪とはどういうものかを教えられました。罪は神の聖さ、あるいは、神の正しさに対する反逆です。そして、この罪から救われるのは、ただイエス・キリストが流されてあの血によってのみです。エペソ 1：7 にパウロはこのように記しています。「この方であって私たちは、その血による贖い、罪の赦しを受けています。これは神の豊かな恵みによることです。」。また、コロサイ 1：20-22 には「：20 その十字架の血によって平和をつくり、御子によって万物を、御子のために和解させてくださったからです。地にあるものも天にあるものも、ただ御子によって和解させてくださったのです。：21 あなたがたも、かつては神を離れ、心において敵となって、悪い行いの中にあつたのですが、：22 今は神は、御子の肉のからだにおいて、しかもその死によって、あなたがたをご自分と和解させてくださいました。それはあなたがたを、聖く、傷なく、非難されるところのない者として御前に立たせてくださるためでした。」と、パウロはこのように「救い」について述べています。救いはただイエス・キリストの血によるのみです。

b. 救いはイエス・キリストを通してのみ与えられる

また、この救いはイエス・キリストを通してのみ与えられるものです。だから、私たちはイエス・キリストを私たち一人ひとりの救い主として受け入れる時にのみ、私たちは救いを得ることができるということです。ヨハネ 3：16 「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」、イエス・キリストを通してのみと、このことをはっきりと教えているみことばの箇所があります。使徒の働き 4：12 「この方以外には、だれによっても救いはありません。天の下でこの御名のほかに、私たちが救われるべき名は人に与えられていないからです。」、はっきりとイエス・キリストのみ、唯一だと言っています。

パウロはまた別の箇所でもこのように言明しています。Ⅰテモテ 2：5 「神は唯一です。また、神と人との間の仲介者も唯一であって、それは人としてのキリスト・イエスです。」と。「きょうダビデの町で、あなたがたのために、救い主がお生まれになりました。この方こそ主キリストです。」（ルカ 2：11）、救いはイエス・キリストを通してのみ私たちに与えられる、みことばはそのことをはっきりと私たちに示しています。

そして今日、私たちはエペソ 2：8-10 を通して、救いの本質が何か？、また、救いには目的があるということのみことばから学んでいきたいと思えます。四つのことを見ます。

3. 「救い」の本質 2：8-9

1) 救いは神の恵み

8 節「あなたがたは、恵みのゆえに、…救われたのです。」、この「ゆえに」ということばが意味するの

は「それだけの理由で」ということです。「恵み」というただそれだけの理由であなたがたは救われたということ。同じ2：5では「…あなたがたが救われたのは、ただ恵みによるのです」と書かれています。

「恵み」：ギリシャ語では「カリス」と言いますが、これは私たち一人ひとりの働きに対する報酬ではありません。全く値のない者、全く働きのない者に与えられる神の贈り物です。

◎この恵みは神のみこころによって与えられる：そのことがエペソ1：7-8に書かれているのでもう一度見ましょう。「7この方において私たちは、その血による贖い、罪の赦しを受けています。これは神の豊かな恵みによることです。8この恵みを、神は私たちの上にあふれさせ、あらゆる知恵と思慮深さをもって、」と、このようにパウロは「恵みは神のみこころによる」と教えています。

◎この恵みは罪深い私たちに注がれる：先に見ましたが、エペソ2：1-3に「恵みは罪深い私たちに及んだ」ということが記されていました。

◎この恵みによって私たちは救われる：パウロはこのエペソ書でも語っているように、ローマ書でもそのことを教えています。ローマ3：24「ただ、神の恵みにより、キリスト・イエスによる贖いのゆえに、価なしに義と認められるのです。」「価なしに救われる」と教えています。恵みは「価のない者」、「働きのない者」、そのような者に与えられる神の贈り物です。

「報酬」：「恵み」に対して報酬は違います。報酬は私たち一人ひとりの働きに応じて支払われるべき当然のものです。ローマ4：4でパウロはこのように言います。「働く者の場合に、その報酬は恵みでなくて、当然支払うべきものとみなされます。」

先ず、救いの本質の一つは「神の恵みによる」ということです。

2) 救いは信仰による

2：8「あなたがたは、…信仰によって救われたのです。」、救いを受け取る私たちの応答は「信仰」です。パウロはガラテヤ2：16で「しかし、人は律法の行いによっては義と認められず、ただキリスト・イエスを信じる信仰によって義と認められる、ということを知ったからこそ、私たちもキリスト・イエスを信じたのです。これは、律法の行いによってではなく、キリストを信じる信仰によって義と認められるためです。なぜなら、律法の行いによって義と認められる者は、ひとりもないからです。」と記しています。「キリストを信じる信仰によって義と認められる」と言います。

「信仰」：「信仰」とはギリシャ語で「ピステイス」、また、動詞形「信じる」は「ピステューオー」ということばですが、この両方を合わせると新約聖書には240回以上使われていると言われていいます。「信仰」とは「神に対する全幅の信頼」です。別のことばで言い表わすなら「私のすべてをゆだねて従います。」という意味です。ですから、この信仰は「全人格的な応答」です。感情だけの応答、知識だけの応答、また、意志だけの応答ではありません。知識も感情も意志もすべて、私たちのすべてから出る応答、これが信仰です。

◎信仰も聖霊の働きによって私たちの心にもたらされる

皆さん、救いを受ける私たちの応答は信仰だと言いました。それなら、信仰は私たちの行ないなのでしょう。いいえ、違います。みことばは違うと教えています。これも神によるものだとはっきりと教えています。Iコリント12：3でパウロはこのように言っています。「ですから、私は、あなたがたに次のことを教えておきます。神の御霊によって語る者はだれも、「イエスはのろわれよ」と言わず、また、聖霊によるのでなければ、だれも、「イエスは主です」と言うことはできません。」と。私たちが救いの応答としてささげるこの信仰も、聖霊なる神の働きによって私たちの心にもたらされるものです。

救いの本質、1番目は「恵み」、2番目は「信仰による」

3) 人間の行ないによっては救われない

2：8「それは、自分自身から出たことではなく、」、ここに「～から」とありますが、これは「～をもとにする、～から始まる」という意味のことばが使われています。「あなたがたの行動、あなたがたの行ないから始まったことではない」ということです。2：9には「行ないによるものではありません。」とあり、「行ないによって救いを得ることはない」とパウロは明らかにしています。このことを教えている箇所をいくつか見ましょう。ローマ3：20「なぜなら、律法を行うことによって、だれひとり神の前に義と認められないからです。律法によっては、かえって罪の意識が生じるのです。」、ローマ3：28「人が義と認められるのは、律法の行いによるのではなく、信仰によるというのが、私たちの考えです。」、ガラテヤ2：16「しかし、人は律法の行いによっては義と認められず、ただキリスト・イエスを信じる信仰によって義と認められる、ということを知ったからこそ、私たちもキリスト・イエスを信じたのです。これは、律法の行いによってではなく、キリストを信じる信仰によって義と認められるためです。なぜなら、律法の行いによって義と認められる者は、ひとりもないからです。」

Ⅱ テモテ 1 : 9 「神は私たちを救い、また、聖なる招きをもって召してくださいましたが、それは私たちの働きによるのではなく、ご自身の計画と恵みによるのです。この恵みは、キリスト・イエスにおいて、私たちに永遠の昔に与えられたものであって、」、テトス 3 : 5 「神は、私たちが行った義のわざによってではなく、ご自分のあわれみのゆえに、聖霊による、新生と更新との洗いをもって私たちを救ってくださいました。」

皆さん、エペソ 2 : 9 の後半に「だれも誇ることのないためです。」と記されています。私たちはこのことばがなくても「救いは行ないにはよらない」ということを理解できます。でも、パウロは「行ないによるのではありません。」に続いて「だれも誇ることのないためです。」と記しています。もし、私たちが自分の行ないによって自分を救うことができるのであれば、私たちはその自分の行ないを誇るができます。また、「自分が自分を救った」と誇るができます。しかし、このような救いは有り得ないのです。パウロはここで「だれも誇ることのないためです。」と言って、「絶対に行ないによつては救われない」ということを強調しているのです。

☆アブラハムの例 : 私たちは一人の人の例を見ることができます。それは信仰の父と言われるアブラハムのことです。ローマ 4 : 1-3 には「:1 それでは、肉による私たちの父祖アブラハムの場合は、どうでしょうか。:2 もしアブラハムが行いによって義と認められたのなら、彼は誇ることができます。しかし、神の御前では、そうではありません。:3 聖書は何と言っていますか。「それでアブラハムは神を信じた。それが彼の義とみなされた」とあります。」と書かれています。

・ 4 : 2 : アブラハムは、行ないによって義と認められたのではない

・ 4 : 3 : アブラハムは、信仰によって義と認められた

創世記 15 : 6 に「彼は【主】を信じた。主はそれを彼の義と認められた。」とある通りです。これが「救いの本質」の三つ目です。

4) 救いは神からの賜物

8 節の終わりに「…神からの賜物です。」と書かれています。原文のギリシャ語の順序では「神のものである賜物は…」という語順です。英語では「The gift of God」です。

「賜物」 : 「神からの一方的な贈り物」です。ローマ 6 : 23 に「罪から来る報酬は死です。」、罪が当然払うべき代価は死であると、その後「しかし、神の下さる賜物は、私たちの主キリスト・イエスにある永遠のいのちです。」とある通りです。神の下さるギフト、賜物は私たちの主キリスト・イエスにある永遠のいのちなのです。

私たちは 2 : 8, 9 を通して、「救いの本質」を四つ見ました。

4. 「救い」の目的 2 : 10

私たちはともすれば 2 : 8-9 で救いのわざが終わったと勘違いをして 10 節を読み飛ばしてしまうことがあります。でも、この 10 節にこそ「神の救いの目的」がはっきりと記されています。「私たちは神の作品であって、良い行いをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行いに歩むように、その良い行いをもあらかじめ備えてくださったのです。」、この箇所ギリシャ語の原文を見ると、文頭に「ガル」という接続詞があります。日本語訳にはないのですが、それは「なぜなら」という意味です。だから、「なぜなら、私たちは神の作品であって…」となります。パウロはここで何を言いたかったのでしょうか？それは 8 節と 9 節で救いの本質について語った後、この救いはすべて神のわざであるということ、もう一度この 10 節の冒頭で私たちに教えるのです。「私たちは神の作品であって、」そして、「キリスト・イエスにあって造られたのです。」と。

クリスチャンは、神によって新しく造られた者（新生）であり、キリストに繋がる者として、新しいいのちの中で、新しい性質をいただきました。この新しい性質こそ「良い行ない」です。

◎新しく造られた者（新生）

この「キリスト・イエスにあって」とは、「信仰によってキリストと結合していること」を意味しています。「新しく造られた」ということ、「新生」です。イエスはニコデモとの会話の中でこのように言われました。ヨハネ 3 : 3 「イエスは答えて言われた。「まことに、まことに、あなたに告げます。人は、新しく生まれなければ、神の国を見ることはできません。」と。また、パウロはこのように言っています。

Ⅱコリント 5 : 17 には「だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。」、コロサイ 3 : 10 「新しい人を着たのです。新しい人は、造り主のかたちに似せられてますます新しくされ、真の知識に至るのです。」と。ヨハネも I ヨハネ 5 : 1 でこのように言っています。「イエスがキリストであると信じる者はだれでも、神によって生まれたのです。生んでくださった方を愛する者はだれでも、その方によって生まれた者をも愛します。」

キリスト・イエスにあって造られた者はどのような者かを教えています。新しく造られた者、新しい人は新しいいのちの中で新しい性質をいただいた者たちです。

◎良い行ない

そして、「良い行ないをするために」とあります。この「～ために」とはギリシャ語の「エピ」ということばが当てられています。これは「新しいいのちの中に良い行ないが完全に組み込まれている」ということを強調するために使われています。新しく造られた者、新しい人はそのいのちの中に良い行ないがもうすでに完全に組み込まれているということのみことばは教えているのです。もちろん、この「良い行ない」とは「神が喜ばれる行ない」のことです。それはマタイ 22 : 37-39 でイエスが言われたことばに要約できます。「:37 そこで、イエスは彼に言われた。「『心を尽くし、思いを尽くし、知力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ。』:38 これがたいせつな第一の戒めです。:39 『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ』という第二の戒めも、それと同じようにたいせつです。」「神を愛し隣人を愛する」ことです。パウロはこのことを具体的にこのエペソ人への手紙 4章から 6章に、実践的に、この「良い行ない」がどのようなものであるかをはっきりと教えています。ぜひ、読んでください。

この「良い行ない」に関して、ヤコブもこのように教えています。ヤコブ書 2 : 17-18、26
 「:17 それと同じように、信仰も、もし行いがなかったなら、それだけでは、死んだものです。」、26節
 「:26 たましいを離れたからだだが、死んだものであると同様に、行いのない信仰は、死んでいるのです。」、
 ぜひ、18節を見てください。「:18 さらに、こう言う人もあるでしょう。「あなたは信仰を持っているが、私は行いを持っています。行いのないあなたの信仰を、私に見せてください。私は、行いによって、私の信仰をあなたに見せてあげます。」、いかがですか、皆さん？「私の信仰をあなたに見せてあげます。」と、見せることが可能なのでしょうか？ 答えはNOです。行ないのない信仰はだれにも見せることができないのです。パウロもヤコブも言います。救われた者、新しく生まれた者は変えられて、その者には良い行ないが伴うということをして…。行ないによっては救われない、しかし、救われた者には行ないが伴うと、パウロもヤコブもそのように教えています。

◎「神の救い」には目的がある

そして、エペソ 2 : 10 の後半は「…神は、私たちが良い行いに歩むように、その良い行いをもあらかじめ備えてくださったのです。」と書かれています。新しく造られた者たちが良い行ないに歩むようにと言うのです。パウロはまた、エペソ 4 : 1 で「さて、主の囚人である私はあなたがたに勧めます。召されたあなたがたは、その召しにふさわしく歩みなさい。」とも言っています。そして、「その良い行いをもあらかじめ備えてくださったのです」、そうです、救われたひとり一人の日々の歩み、日々の働きの内容も方向もすでに神によって定められているということを、私たちはこのみことばから知ることができます。だから、パウロは言います。エペソ 4 : 17 「そこで私は、主にあつて言明し、おごそかに勧めます。もはや、異邦人がむなしい心で歩んでいるように歩んではなりません」。

私たちは「救いには神の目的がある」ということを今この 10節から知ることができました。そして、エペソ 1 : 4 には「選び」のことが書かれています。エペソ 1 : 4 に「すなわち、神は私たちが世界の基の置かれる前から彼にあつて選び、御前で聖く、傷のない者にしようとされました。」とあり、パウロはキリストの「救いの目的」は神の「選びの目的」とも一致するということを明らかに示しています。そうです、皆さん、私たちが救われた目的は選ばれた目的と一致するのです。

5. まとめ

今日、私たちは「救いの目的とその本質」を見て来ました。最初に、マタイ 16 : 26 から、私たちの人生にとって一番大切なものは何なのか？「まことのいのちを得ることだ」と見ました。みことばは教えます。「私たちが全世界を手に入れても、まことのいのちを損じたら何の得もない。」と。そのためには私たちは自分の罪という問題を解決しなければいけません。その罪を解決するためにはイエス・キリストを通してのみです。イエス・キリストを通して私たちは救われる、そのことだけがこの人生の目的をしっかりとつかみ取る方法です。救いはすべて神のわざです。

(1) 救いの本質

- a. 恵み b. 信仰 c. 行ないによるのではない d. 神の賜物

(2) 救いの目的

それは「良い行ないをすること」でした。ヤコブも同じことを言明しています。

救われている皆さん、私たちはただ単に救われて永遠のいのちを頂いた、それで私たちの救いが完了したわけではありません。10節で教えるように、私たちにはその後大切な働きが託されました。主イエスはそのことをこのように教えています。マタイ 5 : 16 「このように、あなたがたの光を人々の前で輝かせ、人々があなたがたの良い行いを見て、天におられるあなたがたの父をあがめるようにしなさい。」と。これが私たちに託された働きです。

最後に、今日は「父の日」です。肉の父は私も含めて家族からまた親しい者からプレゼントをもらうことを強く願っています。でも皆さん、天の父、霊の父は違います。皆さんにプレゼントを与えようとしています。すでに救われて神の子どもとされている皆さん、もう一度そのプレゼントを調べてください。私たちが知らなかったすばらしいものがそこにはきっとあります。まだ、このプレゼントを頂いていない方がおられましたら、ぜひ、お勧めします。お父様からのプレゼントをお受けください。これが私たちがこの人生を生きる目的を明らかにしてくれるプレゼントです。